

第5回射水市学校部活動在り方検討会 議事録

1 会議

期 日：令和5年5月31日（水）15：30～17：30

場 所：射水市役所会議室401

出席者：

- （委員） 金谷会長（委員）、小竹副会長、寺島委員、加藤委員、
櫻野委員、三上委員、金委員、山木委員、浅村委員
（代理：三角委員）、朝倉委員、川腰委員、原委員、古城委員、
浦島委員
- （事務局） 久々江教育委員会事務局長
遠藤次長（生涯学習・スポーツ課長）
六渡次長
星野学校教育課長
酒井副主幹、川渕係長、稲田主査、道上主任（学校教育課）
鳥本課長補佐、荒木主査、岡本主事、
小林スポーツ推進コーディネーター（生涯学習・スポーツ課）
谷口専務理事、京角事務局長、小田事務局長
（（公財）射水市体育協会）

2 概要

- ・開会のあいさつ（金谷教育長）
- ・議事進行（金谷教育長）
- ・報告事項

- （1）令和5年度地域部活動の加入状況について
- （2）令和5年度新規モデル3競技について
- （3）休日部活動の地域移行後の大会・コンクール等出場について

【委員からの意見等】

（委員）

資料3のパターン1「大会は学校部活動として参加する」というのは、土日は各学校が集まって地域部活動を行っているが、大会にはそれぞれの学校で参加するという認識で間違いないか。また、パターン2の「大会にも地域部活動として参加する」というのは、集まった学校の子供たちが1つになって参加するため、集まった学校のうち、いずれか1つの学校しか参加できないのか。

（事務局）

パターン1はその認識で間違いない。パターン2は3つの学校で練習していても参加できるのは地域部活動として1つのチームとなる。

・協議

・モデル競技実施における課題等

事務局より、連絡方法・保護者の送迎の負担・報償費の3点の課題について説明。

【委員からの意見等】

(委員)

現場の先生方は躊躇している雰囲気を感じる。中学校長会としても教育委員会と連携しながら地域移行の見通しを先生方へ発信し、一体感をもって進めていきたい。

昨年度、バスケットボール協会としてモデル競技に取り組んだ。教員が大会の引率をする必要はなくなった代わりに大会役員が足りなくなったため、学校へ役員として先生を派遣要請する必要が生じた。

(委員)

教員も戸惑っている。学校から部活動を完全に切り離してしまうと子どもたちが戸惑ってしまう。いろいろ模索している過渡期なのかもしれない。

(委員)

保護者から送迎が大変だという声を聞く。小学校のスクールバスやコミュニティバスを活用できないかという話もでていた。せっかくの学校体育館やグラウンドを有効活用できないのはもったいない。

(委員)

保護者の送迎をシステム化できないかと検討している。行政と手を取り合っていないとうまくいかない。

(事務局)

活動会場までの移動手段が課題であることは受け止めている。現段階では公表できるものはないが様々なパターンの話は事務局用でしている。

(委員)

報償費について、なぜ指導者謝金は1会場につき2人までなのか。2人では対応できないと思う。予算の確保を国や県へ要望しているのか。

(事務局)

ご指摘いただいた指導者2人では足りないケースも認識しており、予算の範囲内で有効に使えないか検討している。ただ、現在は全額指導者謝金を市で負担しているが、将来的には市からの補助はなくなり、保護者負担になる

こともありうるので、慎重にすすめていく必要がある。なお、国等へ予算確保の要望を出している。

(委員)

保護者へ部活動にかかる集金を行っているのか。

(事務局)

地域部活動においては、一切集金は行っていない。学校部活動では、各学校・部活動により対応は異なり、大会出場費や遠征費など集金している場合もある。ただし、学校部活動における指導教員への謝金を保護者から集金していない。

(委員)

バラツキがあるのはよくない。今後のためにも整理していく必要がある。

(委員)

今回から文化部に関係する委員の皆さんにも参加してもらっている。意見はあるか。

(委員)

吹奏楽部を指導する立場として、地域移行に当たり懸念されることは、会場費、楽器の置き場、練習会場の確保である。他の部活動より費用がかかると考えられるので、活動に係る補助があれば現実的に近づく。

(委員)

楽器の置き場について、小杉文化ホールでは市から楽器を預かっている状況だが、楽器の更新の予定はあるか。なお、貸出は主に中学生へ行っている。完全に設置するという方向に考えを改める必要があると考えている。

(事務局)

大きな大会へ出場するときの練習のための会場使用は市から補助しているが、通常の会場の支援などはない。楽器については計画的ではないが、一部更新する予定である。

(委員)

資料3 パターン2「地域の吹奏楽団として参加する」というのは、区分は社会人、もしくは中学生として参加するのか。現在、全日本吹奏楽連盟では、合同中学校としての参加を認めていないが、今後前向きに検討していく方針である。本市が先行するよりも、ある程度全国的な方針が見えてきた段階で移行するほうが混乱しないのではないか。

(事務局)

令和6年度よりその方針になると聞いており、取り組んでいく。

(委員)

本市の吹奏楽はレベルが高いと思うので、フォロー体制をしっかりとしてほしい。

運動部活動は人が足りないから地域のクラブチームへ参加する人が増えていると思う。スポーツ少年団の団員も減っている。競技人口が減少しており、心配である。子どもたちのスポーツへの関心を高めてほしい。

(事務局)

今年度より部活動への加入を「強制」から「推奨」するに変更した。正確に把握していないが、加入していない生徒は1割程度である。加入していないのは、地域のクラブチームや総合型地域スポーツクラブのダンス教室への参加など、学校部活動ではない活動に青春をかけている生徒である。

(委員)

芸術文化協会の役員が高齢化しており大変だが、できることは協力していきたい。絵画や写真撮影に関するイベントも予定している。

(委員)

どこも課題を抱えている。イベントをきっかけに子どもたちが携わるきっかけになるとよい。

(事務局)

カモンスポーツクラブのバドミントンクラブは、射北中学校のバドミントン部と合同で練習している。学校部活動としてではなく、地域のクラブチームとして大会にも参加した。近年の地域部活動への流れを汲んで、自ら動いている方々もいる。クラブへの送迎は保護者の方が行っているのか。

(委員)

クラブへの送迎は主に保護者である。スポーツクラブとして提案し、両者合意の上で活動している。学校部活動の子どもたちとスポーツクラブの子どもたちはそれぞれの特色をもって切磋琢磨しながら頑張っている。

(委員)

学校部活動、地域部活動だけではなく、地域にクラブが立ち上がってきている。

(委員)

資料1の指導者数を見ると、指導者の方が多くいるように感じる。それぞれの中学校へ派遣するという形をとれないか。

(事務局)

資料1の指導者数は1回あたりの人数ではなく、全体の合計である。剣道であれば、22人いるが4会場2人ずつ指導者を割り振り、ローテーションで指導している。競技団体からはそれぞれの学校へ派遣するのは難しいと聞いている。

(委員)

小学校までは地域部活動の情報はあまり入ってこない。6年生の保護者の方へわかりやすい説明をお願いしたい。

(委員)

様々な課題があるが、部活動を楽しみにしている子どもたちは多い。地域部活動の環境を整備し、学校としても教育委員会と連携しサポートしていきたい。

(委員)

スポーツ安全保険について、いずれ地域部活動に加入するのであれば、早い段階で保険に加入させてほしい。

(事務局)

団体として加入しており、誰が地域部活動に加入するかわからない状態で保険に加入することは難しい。

(委員)

部活動の地域移行による新たな利点を紹介したい。中学3年生の取り扱いについて、学校部活動では夏の大会が終われば引退だったが、地域部活動では大会が終わった後でも、受験の息抜きなどで3月の卒業まで参加することができた。

・その他

今後のスケジュールや次回の会議予定等について説明